

# 公開実用 昭和62- 166562

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報(U) 昭62- 166562

⑫ Int. Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和62年(1987)10月22日

G 07 B 1/00

E-7347-3E

G 06 F 15/21

3 3 0

8219-5B

G 07 F 9/00

1 1 2

6727-3E

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 食券販売機

⑮ 実 願 昭61-54050

⑯ 出 願 昭61(1986)4月10日

⑰ 考 案 者 青 木 隆 宜 姫路市下手野35番地 グローリー工業株式会社内

⑱ 考 案 者 岩 沢 利 行 姫路市下手野35番地 グローリー工業株式会社内

⑲ 出 願 人 グローリー工業株式会 社 姫路市下手野35番地

⑳ 代 理 人 弁理士 榎 沢 襄 外3名

BEST AVAILABLE COPY

明 細 書 ( 2 )

1. 考案の名称

食券販売機

2. 実用新案登録請求の範囲

予め決められたメニューに対応して各々選択ボタンが設けられ希望するメニューの選択ボタンを押すことにより投入された貨幣類の価格内で選択したメニューの食券を販売してなる食券販売機において、

上記複数個設けられている選択ボタンに各々対応した口座番号毎にメニュー名、価格等を記憶する実口座メモリと、

この実口座メモリとは別に上記選択ボタンに対応せずに使用されていないメニュー名、価格等を口座番号毎に記憶する架空口座メモリと、

口座番号等の数値データを入力することができる数値入力手段と、

実口座メモリと架空口座メモリとの間で交換すべき上記数値入力手段より入力された口座番号を記憶する交換口座メモリと、



この交換口座メモリの記憶内容に基づき指定された実口座メモリの口座番号に対応するメニュー名、価格等と指定された架空口座メモリの口座番号に対応するメニュー名、価格等とを入れ変える制御手段と

を設けたことを特徴とする食券販売機。

### 3. 考案の詳細な説明

(考案の目的)

(産業上の利用分野)

本考案は、投入された硬貨類の価格内で選択されたメニューの食券を販売する食券販売機に関する。

(従来 of 技術)

食券販売機は、予め決められたメニューに対応して各々選択ボタンが設けられ、そして、希望するメニューの選択ボタンを押すことにより投入された貨幣類(クレジットカードも含む)の価格内で選択したメニューの食券を販売している。

この食券販売機では、複数個設けられた選択ボタンに各々対応してメニュー名、価格等をメモ

リが記憶しているが、季節変化に伴うメニューの変更等により、そのメモリに記憶されているメニューを入替える必要が生じる。このメニューの入替えは、テンキーによるコード入力で、変更する選択ボタンに対応したメモリに対して、新しく変更するメニュー名、価格等を文字内容、文字の大きさおよび文字の配列等を考慮して1字1字打ち直すようになっていた。

(考察が解決しようとする問題点)

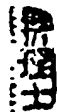
従来の食券販売機では、メニューの入替えをする場合、新しく変更するメニュー名、価格等を文字内容、文字の大きさ、文字の配置等いろいろ考えて1字1字テンキーで入力しなければならず、手間を要するとともに非常に時間がかかっていた。しかも、その入替えしたメモリに記憶されていた前のデータが入替えをすると消去されてしまうため、再び、別のメニューに入替える場合、また最初から入力しなければならず、そして、最初からメニューを設定し直すには、上述のように困難な問題が生じる。

本考案は上述のような点に鑑みなされたもので、メニューの入替えを容易にし、入替えられたメニューの保存を可能とした食券販売機を提供することを目的とするものである。

## ( 考案の構成 )

### ( 問題点を解決するための手段 )

本考案は、予め決められたメニューに対応して各々選択ボタンが設けられ希望するメニューの選択ボタンを押すことにより投入された貨幣類の価格内で選択したメニューの食券を販売してなる食券販売機において、上記複数個設けられている選択ボタンに各々対応した口座番号毎にメニュー名、価格等を記憶する実口座メモリ5と、この実口座メモリ5とは別に上記選択ボタンに対応せずに使用されていないメニュー名、価格等を口座番号毎に記憶する架空口座メモリ6と、口座番号等の数値データを入力することができる数値入力手段12と、実口座メモリ5と架空口座メモリ6との間で交換すべき上記数値入力手段12より入力された口座番号を記憶する交換口座メモリ7と、この



交換口座メモリ 7 の記憶内容に基づき指定された実口座メモリ 5 の口座番号に対応するメニュー名、価格等と指定された架空口座メモリ 6 の口座番号に対応するメニュー名、価格等とを入れ変える制御手段 1 とを設けたものである。

(作用)

本考案の食券販売機は、実口座メモリと架空口座メモリの口座番号毎にメニュー、価格等のデータを記憶させ、そして、実口座メモリと架空口座メモリとの間で交換すべき口座番号のデータを交換口座メモリに一旦記憶させてから、実口座メモリの指定口座番号のデータと架空口座メモリの指定口座番号のデータとを入れ替えるようにしたものである。

(実施例)

以下、本考案の一実施例の構成を図面を参照して説明する。

第 1 図において、1 は食券販売機全体の制御を行なう制御部で、この制御部 1 には、販売制御部 2、記憶部 3、発券部 4 が接続されている。

販売制御部2は、硬貨類(カードを含む)の投入に基づいて、その投入された硬貨類の価格内で選択されたメニューの食券の販売を制御するもので、例えば30個の選択ボタンの中から選択された選択ボタンに対応するメニューのデータを記憶部3から呼出して、そのメニューの食券を発券部4で発行させる。

記憶部3は、第2図に示すように、30個の選択ボタンに各々対応し発券に使用される口座番号1～30毎にメニューおよび価格を記憶する実口座メモリ5と、発券に使用されない口座番号41～50番号にメニューおよび価格を記憶する架空口座メモリ6を有し、これらメモリ5、6は、各口座番号に対応するメニューおよび価格の記憶を変更することができる。さらに、この記憶部3は、第3図に示すように、交換口座メモリ7を有し、この交換口座メモリ7は、メニューおよび価格を記憶するプアッファメモリBUF、口座番号をそれぞれ記憶するメモリA、Bを備えている。

発券部4は、販売制御部2に基づいて記憶部

3の実口座メモリ5の選択された口座番号にあるメニューおよび価格のデータを例えばサーマルプリンタで感熱ロール紙に印字してカッタで切断した食券を発行する。

また、制御部1には、表示部8、各種キー9、10、11、数値データ入力部12が接続されている。

表示部8は、記憶部3の記憶内容を例えばLEDや液晶等の手段によって表示する。

口座内容表示キー9は、記憶部3の口座番号に対応するメモリ内容を口座番号順に表示部8に表示させるための表示指定をする。

口座データ変更キー10は、記憶部3の実口座メモリ5と架空口座メモリ6の口座データを入替えるための変更指定をする。

イコールキー11は、実口座メモリ5と架空口座メモリ6との入替えの承認指定、口座内容表示キー9の指定により表示部8に表示されている口座番号の順送り指定をする。

数値データ入力部12は、口座番号等の数値データを入力することができる例えばテンキー等の



数値入力手段からなる。

なお、制御部 1、記憶部 3、表示部 8、各キ  
ー 9、10、11、数値データ入力部 12は管理人のみ  
操作できる管理操作装置内に組込まれている。

次に、本実施例の作用を説明する。

食券販売機における発券動作は、硬貨、紙幣  
あるいはクレジットカード等の貨幣類が食券販売  
機に投入され、その投入された貨幣類の価格内で  
メニューの選択ボタン例えばうどんの選択ボタン  
が押されると、その選択ボタンに対応した記憶部  
3の口座番号2番のデータ（うどん、450円）  
が呼出されて、発券部4にてその口座番号2番の  
データ（うどん、450円）を印字した食券が発  
行される。なお、選択されたメニューの価格より  
も多く貨幣が投入されている場合には釣銭を投出  
する。

次に、メニューの入替え作用を第4図のフロ  
ーチャートに基づいて説明する。

実口座メモリ5の口座番号4番の冷しそばと  
架空口座メモリ6の口座番号41番の親子丼とを

入替えする。管理人により口座データ変更キー10が押されて口座変更指定がなされ（ステップ①）、数値データ入力部12により口座番号41番が入力されると（ステップ②）、交換口座メモリ7のメモリAにその口座番号41番を記憶（同時に表示部8で口座番号41番を表示）し（ステップ③）、その入力された口座番号41番が架空口座メモリ6の口座番号か否か判定し（ステップ④）、入力ミスや実口座メモリ5の口座番号を先に入力した場合には、再びステップ②に戻って口座番号の入力に待機する。

ステップ④で入力された口座番号41番が架空口座メモリ6の口座番号であると判定され、続いて、実口座メモリ5の口座番号4番が入力されると（ステップ⑤）、交換口座メモリ7のメモリBにその口座番号4番を記憶（同時に表示部8で口座番号4番を表示）し（ステップ⑥）、その入力された口座番号4番が実口座メモリ5の口座番号か否か判定し（ステップ⑦）、入力ミスや架空口座メモリ6の口座番号を入力した場合には、再

びステップ⑤に戻って口座番号の入力に待機する。

ステップ⑦で入力された口座番号4番が実口座メモリ5の口座番号であると判定された後、表示部8に表示された各口座番号41番、4番を確認した管理人による入替え承認のためのイコールキー11が押されると（ステップ⑧）、ブアッファメモリBUFに実口座メモリ5の指定口座番号4番のデータ（冷しそば、350円）を移し（ステップ⑨）、続いて、架空口座メモリ6の指定口座番号41番のデータ（親子丼、650円）を実口座メモリ5の指定口座番号4番に移し（ステップ⑩）、さらに、ブアッファメモリBUFに移したデータ（冷しそば、350円）を架空口座メモリ6の指定口座番号41番に移し（ステップ⑪）。そして、データ（親子丼、650円）が移された実口座メモリ5の口座番号4番の記憶データに基づいて発券部4で印字してデータ入替えを確認し（ステップ⑫）、ステップ①に戻る。

このように、ブアッファメモリBUFに実口座メモリ5の指定口座番号のデータを一旦移してか

ら、架空口座メモリ6の指定口座番号のデータを移し、続いて、ブッファメモリBUFに移されたデータを架空口座メモリ6の指定口座番号に移すようにし、入替えられるデータの内容を消去せずに架空口座メモリ6に移して記憶しておくことにより、再び入替えをする際に再使用することができる。

また、実口座メモリ5および架空口座メモリ6のデータを確認するために管理人により口座内容表示キー9が押されて口座表示指定がなされると(ステップ③)、口座番号1番のデータを呼出して表示部8に表示する(ステップ④、⑤)。そして、その表示を確認した後、管理人により口座番号の順送りのためにイコールキー11が押されると(ステップ⑥)、その表示部8に表示した口座番号に+1した口座番号のデータを呼出し(ステップ⑦)、次のステップ⑧を経てステップ⑥に戻りデータを表示する。そのステップ⑧では、その口座番号が51番になったか判定して、なっていないならばステップ⑥に戻り、また、51番になっ

公開  
実用  
新案

たらステップ④に戻ってもう一度最初の口座番号  
1番から表示する。なお、この口座表示モードは、  
管理人による停止操作によって停止される。

なお、上記実施例では、口座変更指定時に、  
架空口座メモリ6の口座番号に続いて実口座メモ  
リ5の口座番号を入力するようにはしていたが、実  
口座メモリ5の口座番号に続いて架空口座メモリ  
6の口座番号を入力するようにしてもよい。

また、上記実施例では、プアッフアメモリ  
BUFに実口座メモリ5の指定口座番号を移すよう  
にはしていたが、架空口座メモリ6の指定口座番号  
をプアッフアメモリBUFを移すようにしてもよい。

さらに、上記実施例では、実口座メモリ5の  
口座番号を1～30番とし、架空口座メモリ6の  
口座番号を41～50番としたが、実口座メモリ  
5は選択ボタンに対応して設け、架空口座メモリ  
6は入替えの必要数に応じて設けるようにする。

〔考案の効果〕

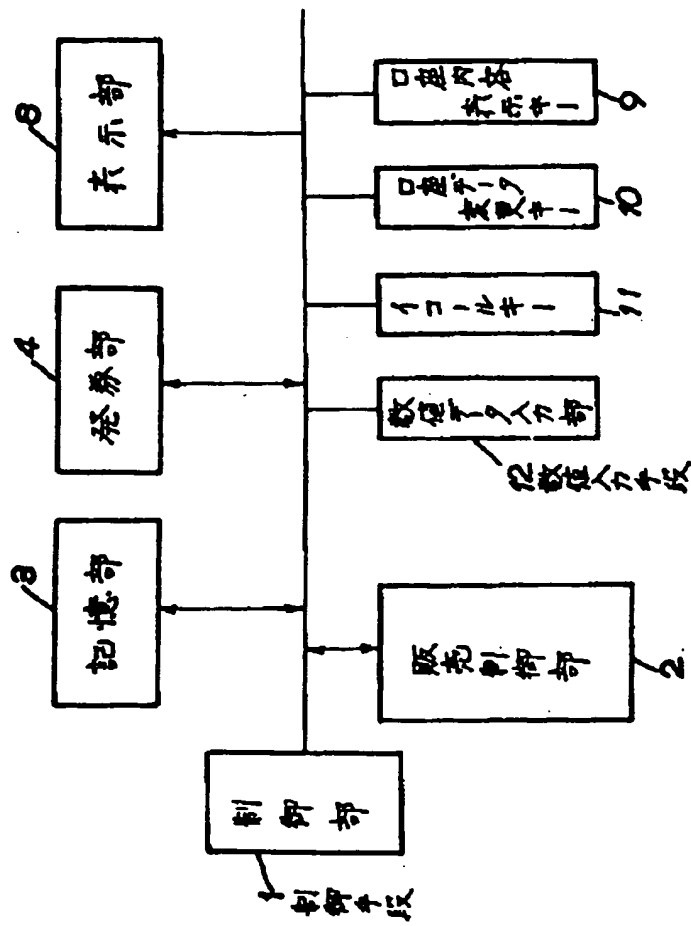
本考案によれば、実口座メモリと架空口座メ  
モリの口座番号毎にメニュー、価格等のデータを

記憶させ、そして、実口座メモリと架空口座メモリとの間で交換すべき口座番号のデータを交換口座メモリに一旦記憶させてから、実口座メモリの指定口座番号のデータと架空口座メモリの指定口座番号のデータとを入替えるようにしたので、口座番号を指定するだけで容易に入替えることができ、しかも、入替えた口座番号のデータは消去されずに架空口座メモリに記憶されるため、再び入替えをする際に再利用することができる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の食券販売機の一実施例を示す構成図、第2図はその実口座メモリおよび架空口座メモリのメモリマップ図、第3図はその交換口座メモリのメモリマップ図、第4図はそのメニュー入替え作用を示すフローチャート図である。

1・・・制御手段としての制御部、5・・・実口座メモリ、6・・・架空口座メモリ、7・・・交換口座メモリ、12・・・数値入力手段としての数値データ入力部。



第1図

7118

昭和62年10月1日 代理人 澤 義 夫

5 実ロ座メモリ	座番号	メニュー	価格
	1	カレー	500
	2	うどん	450
	3	ざるそば	450
	4	冷レそば	350
6 実ロ座メモリ	⋮	⋮	
	30	A 定食	900
	41	親子丼	650
	42	ミルクフラッペ	450
	43	冷 麺	750
	⋮	⋮	
	50	鍋焼うどん	700

## 第 2 図

7 交換ロ座メモリ	BUF		
	A		
	B		

## 第 3 図

709

特許庁登録願人 グローリー工業株式会社  
代 理 人 樺 澤 義 孝

昭和62年11月1日



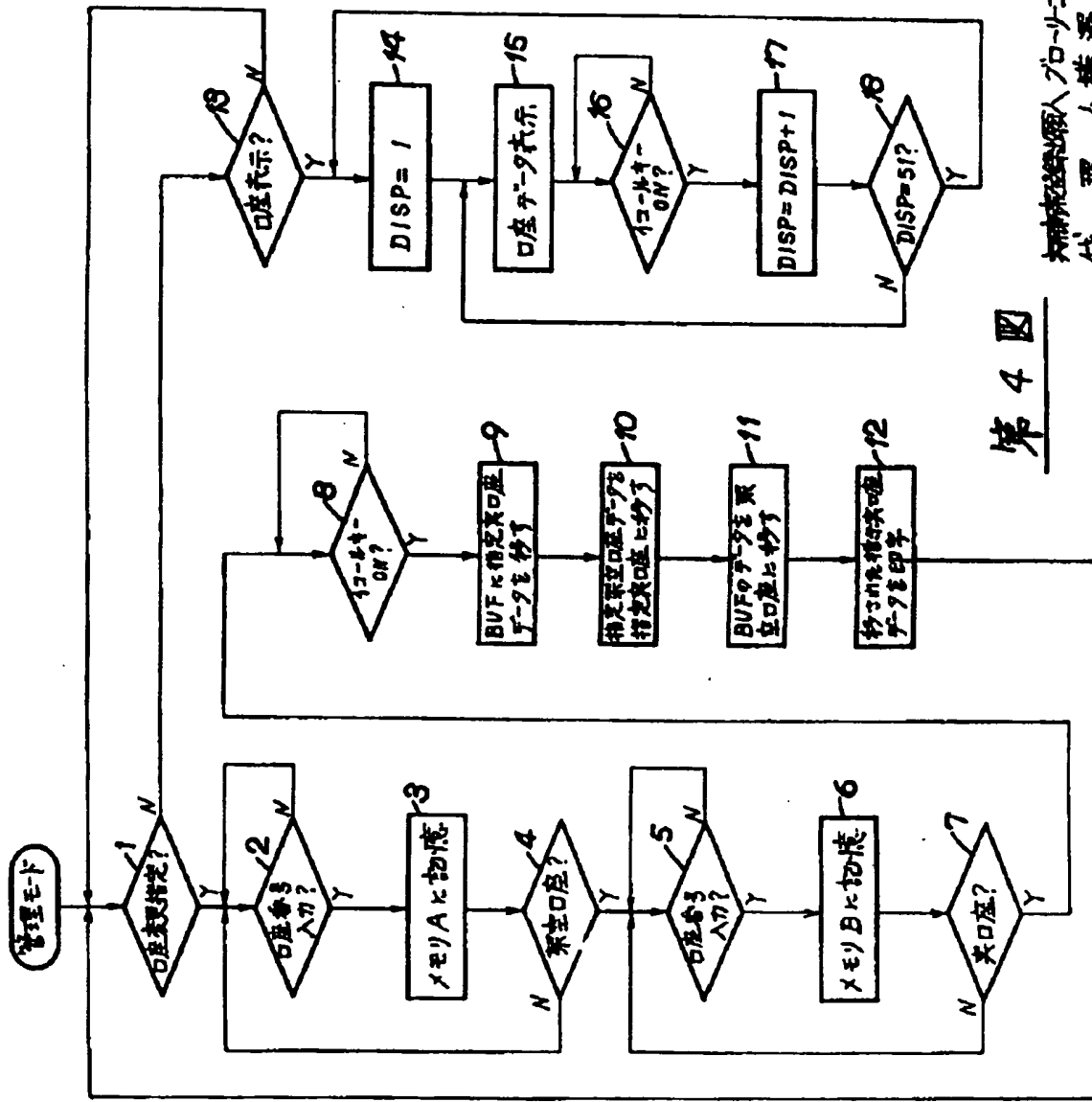


圖 4 獎